

むかしあそび研究会だより

No. 2 (2017年6月号)

発行責任者：会長 大澤貞男

- ◆ 4月4日に楠公会館において第16回総会を開催し今年度の役員等を決定しました。
- ◆ 4月～5月は「わいわいストリート」など5回のボランティア活動と会員を対象とした2回の道具づくり・研修会を行いました。

「わいわいストリート」に参加

5月5日(金)、こどもの日。しあわせの村芝生広場で開催された「わいわいストリート」に参加しました。

むかしあそび研究会のブースとして用意されたテントは5張り。その中で11のあそびコーナーを設けました。

遊びの種類は、幼児から小中学生まで楽しんでもらえるように大きく分けて、使って遊ぶ(竹馬、こま、お手玉、あやとり)、作って遊ぶ(折り紙、割り箸鉄砲、風ぐるま、紙飛行機)、用意したおもちゃで遊ぶ(はねがえる、紙とんぼ、ブンブンごま)の3つとしました。

この日は快晴。汗ばむような陽気の下、大勢の子どもと保護者の方がむかしあそびを楽しんでいました。

子どもよりも大人の方が夢中になったり、初めて竹馬に乗ってにっこり微笑む子やおじいちゃんから手ほどきを受けて紙飛行機を飛ばす子がいたり、と皆さんとても楽しそうに遊んでおられました。

参加した会員は63名。お疲れ様でした。

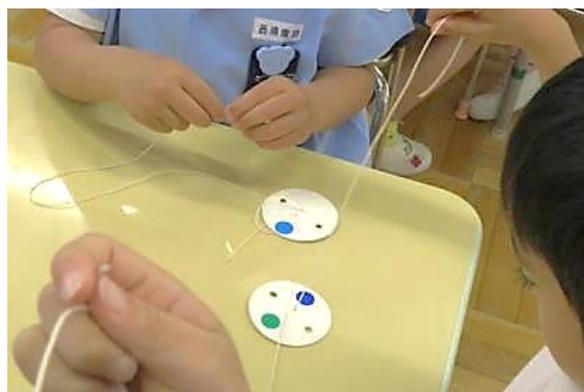


西須磨幼稚園でむかしあそび

5月19日（金）、西須磨幼稚園で年長組園児96名とむかしあそびをしました。この日のテーマは「作って遊ぼう」で、紙とんぼ、ブンブンごま、折り紙ごまのうち2種類を作って、自分が作った作品で遊びました。

紙とんぼの羽根とストローをホッチキスで止める、ブンブンごまに糸を通して結ぶなど園児には難しいところを我々メンバーが手伝って完成させました。

出来上がるとすぐに遊びたくなり、勝手な方法で遊ぶので飛ばなかったり回らなかったりしましたが、ちょっとしたヒントでできるようになり皆大喜びでした。終わりの集いに園児が元気のよい声で歌のプレゼントをしてくれ、参加した20名の会員も元気を貰いました。



伊丹ラスタホールで「むかしあそび体験」

5月27日（土）、伊丹ラスタホール（伊丹市立生涯学習センター）で「むかしあそび体験」を行いました。兵庫県生活創造センターの要請で行っており、今回で3回目です。今年の会場は1階の正面ロビー。ラスタホール内にあるデイサービスセンターの利用者も立ち止まって嬉しそうに子どもたちが遊ぶ姿を見ておられました。

参加者は、家族連れや小学生のグループなど138名。どのコーナーも2時間お客さんが途切れることがありませんでした。仲良く話しながら遊び道具を作る親子、初めから終わりまで遊んでいた小学生3人組やけん玉の手ほどきを受けて40～50分熱中していた2人組など、皆さん用意したむかしあそびをじっくり楽しんでおられ、主催者が実施したアンケートにも次の様な嬉しい感想がありました。



◆おもちゃがあふれている時代に身近なもので遊ぶことを子供におしえる良い機会となりました。

◆普段家では知識なく出来ない事が出来てよかったです。工作が好きな子供もとても喜んでいました。

◆優しく丁寧に教えて下さりありがとうございました。大変そうな準備もしっかりとして下さっていて、お人柄も優しい方ばかりで安心して遊べました。

（参加会員12名。要請元の兵庫県立神戸生活創造センターから2名の応援がありました。）



※ 伊丹市はけん玉が盛んな所で、今年も参加した小学生が高度な技を見せてくれました。
【写真左から、飛行機、灯台、うぐいす】